浜の活力再生プラン

令和 6 ～10年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	室蘭地区沖底地域水産業再生委員会
代表者名	室 村 吉 信（室蘭漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	室蘭漁業協同組合、室蘭市（経済部農水産課）
オブザーバー	北海道胆振総合振興局、胆振地区水産技術普及指導所 北海道機船漁業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会室蘭支店

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の範囲：胆振、日高、渡島海域 ・ 対象漁業種類 沖合底曳網漁業 ・ 正組合員数 1 経営体 (令和 5 年10月31日 現在) 	着業者数 2 経営体
-------------------	---	---------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当室蘭地区沖底地域水産業再生委員会が所管する室蘭市は、「鉄のマチ」として知られ、重化学工業・港湾都市として発展してきた地域であるが、その一方で、水産業も古くから営まれ、流通等の関連業種を含め地域の重要な産業を形成している。当地域の水産業は、沿岸漁業と沖合底曳網漁業が共存しており、沖合底曳網漁業は、スケトウダラ・マダラ・スルメイカ・カレイ類を主体に、令和 4 年度で室蘭漁協の総水揚量約 1 3 千トンのうち約 1 1 千トン（8 6 %）、総水揚金額約 2 4 億円のうち約 1 5 億円（6 3 %）を占めている。</p> <p>ここ数年は 1 3 億円を上下する水揚が続いており、魚価は上昇しているものの、海水温の上昇等による漁獲物の変容及び漁獲数量の減少が続いており、厳しい経営状況となっている。</p> <p>また、自然環境の変化に加え、長引くデフレと円安・海外情勢による燃油価格や漁業資材の高騰など、対応していかなければならない課題が山積している。</p> <p>室蘭市内にあった室蘭漁協、室蘭機船漁協は、漁業者負担の軽減及び漁業協同組合の合理化のため平成 1 8 年 4 月 1 日に合併し、室蘭漁業協同組合として発足した。</p> <p>室蘭漁協には、民間法人所有の沖合底曳網漁船 4 隻が所属し、4 隻全てが平成 2 0 年以降に建造した新造船で、これまでに国からの支援を受けながら、省エネ・省コスト化・高付加価値化に対する取組みを積極的に実施してきた。</p>

(2) その他の関連する現状等

<p>室蘭市は、北海道中南部（道央地方）に位置し、胆振総合振興局の所在地であり、計量特定市に指定されている。</p> <p>胆振総合振興局内では苫小牧市に次ぐ人口となっており、かつては 18 万人以上であったが、基幹産業である新日本製鐵（日本製鉄）等の大規模な合理化や、登別市や伊達市といった周辺都市への転出などに押され、令和 5 年 12 月末時点で約 76,000 人となっている。</p> <p>札幌や本州・海外の玄関口である新千歳空港からも車で 2 時間圏内という好立地にあり、国内有数の温泉観光地である登別温泉、洞爺湖温泉に隣接し、近年は工場夜景の魅力を観光資源に取り入れ、観光振興を図っている。</p> <p>漁協と室蘭市は情報共有と連携を密に図り、漁業と観光による地域振興を積極的に進めている。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

当地域の沖合底曳網漁業は、地域雇用を含め地域経済の安定に重要な役割を果たしているが、今後の漁業経営は、自然環境の変化による水揚げの変動及び海外情勢の変動による影響が予想され、これに対応した低コスト・高付加価値型の生産・流通構造の形成が喫緊の課題となっている。

このような現状とこれまでの取組みを踏まえ、活力ある水産業のあるべき姿を目指す「室蘭地域マリンビジョン計画」及び「北海道機船漁業室蘭地域プロジェクト改革計画」を柱とし、①水産資源の持続的利用による生産性向上、②水産品の輸出拡大、品質向上、鮮度保持対策、低・未利用資源の活用・他市場との連携による付加価値向上、③省燃油活動、窒素氷の活用による経費削減に係る対策、④海業の推進に取組むため「浜の活力再生プラン」を策定し、漁業所得の向上による漁家経営の安定と当地域の活性化を目指す。

① 漁業収入の向上

- ・スケトウダラの箱詰め出荷について、製氷・貯氷施設によるプレート氷の窒素氷の活用によって品質向上を図るとともに、漁獲後から出荷までの低温・衛生管理を徹底するための高度衛生管理荷捌施設を取得し、品質・衛生管理強化に努めることで、魚価の向上及び東アジア向け輸出の増大を図る。
- ・屋根付き岸壁の早期整備により、漁獲物の品質保持、鮮度向上及び衛生管理体制の構築を図る。
- ・滅菌海水装置や海水冷却設備・活魚水槽の整備により、「活」状態での出荷による魚価の向上を図る。
- ・電子入札システムを導入し、他市場のセリ時間と重複することのないよう調整することで市況を反映した入札をすることにより、魚価の向上及び業務の効率化を図る。
- ・製氷・貯氷施設（プレート状の窒素氷やシャーベット氷の利用）を活用することで、保冷技術の開発や流通改善等による低・未利用資源の付加価値向上、及びソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の魚価向上に向けた取組みを実施する。
- ・イベントの開催・参加及びオンラインショップの利用によって、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。

② 漁業経費の削減

- ・全船による共同操業で漁場の情報共有化を図ることにより、漁場探索、漁場利用の効率化に努めることで漁業経費の削減を図る。
- ・減速航行及び船底清掃による省燃油活動の実施。
- ・新設の製氷・貯氷施設の活用により、施氷を徹底することによる氷のコストの削減を図る。
- ・岸壁に近接する高度衛生管理荷捌施設の新設により、場内への搬入作業の移動距離短縮による燃料費の削減、搬入作業の効率化を図る。

③ 漁村の活性化

- ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。

(3) 資源管理に係る取組

・地域資源管理推進委員会での協議、並びに資源管理協定の遵守・沖合底曳網漁業と沿岸漁業との漁業調整のための操業協定、漁場協定の遵守・TAC魚種に係る漁獲量の遵守

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）2.0%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、スケトウダラの取扱いについてバラ出荷よりも単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を継続・伸長していくために、韓国の水産物輸入規制状況を確認しつつ、製氷・貯氷施設の活用により氷の角立ちが少ないプレート氷や鮮度保持効果が高い窒素氷を使用することで鮮度及び品質向上を図る。また、船上でスケトウダラ発泡詰め作業において袋氷を利用することで衛生面に配慮し、必要に応じて滅菌海水による魚船洗浄を行うなど、取扱い方法の改善を図るとともに、船上での低温管理（窒素氷の使用による保管）を徹底し輸出相手国の要請にあった出荷体制の構築を図る。これにより、韓国のほか中国など広く東アジアを対象に輸出の増加に努める。 ・漁業者と漁協、室蘭市は、追直漁港（陸上）で荷捌き処理するスケトウダラ・スルメイカを対象に、作業ルールに基づいた荷捌き作業を行い、漁港での作業動線の輻輳を回避することで水産物の細菌混入リスクの低減に努める。また、北海道庁及び開発局に対して、屋根付き岸壁の早期整備を要請する。 ・漁業者と漁協は、追直漁港の岸壁に高度衛生管理荷捌施設を新設について検討し、船舶との距離を近くすることによる漁獲物の陸揚げ時の細菌混入のリスク低減等の衛生管理や、低温保管し遠隔地への輸送の際の鮮度を保持することによる魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、先進地視察・各種実証試験の結果を踏まえ設定した保存方法に基づいて水産物を保存し、衛生管理及び鮮度・品質向上に努める。 ・漁業者と漁協は、製氷・貯氷施設を活用し、アブラガレイ・カジカ等の低・未利用資源の出荷販売や、ソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の価格低下対策（販路拡大・市場ニーズに合わせた受注販売など）として、漁獲後に鮮度を保持したままで酸化を防ぎ長期保存の効く窒素氷の活用、流通事情に適したロット管理の構築により付加価値の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、電子入札システムの導入を計画し、他市場とのセリ時間の重複を回避することにより、市況を適切に反映した魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、「室蘭さかなの港町同窓会」を含む朝市などのイベントを継続開催し、魚介類のPR活動を行うなど、イベントに積極的に参加し、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、漁獲のプール制をはじめとする抜本的な共同操業を実施することにより、漁場の情報共有化、漁場の分散操業、全船による計画的な漁獲努力を実施し、水産資源を持続的に利用できる体制を維持するとともに、漁場までの航行時間の短縮化等による漁業経費の削減を図る。 ・漁業者は、減速航行の徹底や船底清掃による省燃油活動の実践を行い、燃油使用量の削減を図る。 ・漁業者は、製氷・貯氷施設の活用により、施氷の徹底を行うことによる氷へのコスト増を抑え、経費の節減を図る。 <p>■これらの取組により基準年に対し3%の漁業コスト削減を目指す。</p>

漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・直轄特定漁港漁場整備事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業強化支援事業（国） ・地域づくり総合交付金（道）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）5.1%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、スケトウダラの取扱いについてバラ出荷よりも単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を継続・伸長していくために、韓国の水産物輸入規制状況を確認しつつ、製氷・貯氷施設の活用により氷の角立ちが少ないプレート氷や鮮度保持効果が高い窒素氷を使用することで鮮度及び品質向上を図る。また、船上でスケトウダラ発泡詰め作業において袋氷を利用することで衛生面に配慮し、必要に応じて滅菌海水による魚船洗浄を行うなど、取扱い方法の改善を図るとともに、船上での低温管理（窒素氷の使用による保管）を徹底し輸出相手国の要請にあった出荷体制の構築を図る。これにより、韓国のほか中国など広く東アジアを対象に輸出の増加に努める。 ・漁業者と漁協、室蘭市は、追直漁港（陸上）で荷捌き処理するスケトウダラ・スルメイカを対象に、作業ルールに基づいた荷捌き作業を行い、漁港での作業動線の輻輳を回避することで水産物の細菌混入リスクの低減に努める。また、北海道庁及び開発局に対して、屋根付き岸壁の早期整備を要請する。 ・漁業者と漁協は、追直漁港の岸壁に高度衛生管理荷捌施設を新設について具体的に検討し、船舶との距離を近くすることによる漁獲物の陸揚げ時の細菌混入のリスク低減等の衛生管理や、低温保管し遠隔地への輸送の際の鮮度を保持することによる魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、先進地視察・各種実証試験の結果を踏まえ設定した保存方法に基づいて水産物を保存し、衛生管理及び鮮度・品質向上に努める。 ・漁業者と漁協は、製氷・貯氷施設を活用し、アブラガレイ・カジカ等の低・未利用資源の出荷販売や、ソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の価格低下対策（販路拡大・市場ニーズに合わせた受注販売など）として、漁獲後に鮮度を保持したままで酸化を防ぎ長期保存の効く窒素氷の活用、流通事情に適したロット管理の構築により付加価値の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、電子入札システムの導入を具体的に計画し、他市場とのセリ時間の重複を回避することにより、市況を適切に反映した魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、「室蘭さかなの港町同窓会」を含む朝市などのイベントを継続開催し、魚介類のPR活動を行うなど、イベントに積極的に参加し、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。 <p>■これらの取組により基準年に対し0.4%の漁業収入向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、漁獲のプール制をはじめとする抜本的な共同操業を実施することにより、漁場の情報共有化、漁場の分散操業、全船による計画的な漁獲努力を実施し、水産資源を持続的に利用できる体制を維持す

	<p>るとともに、漁場までの航行時間の短縮化等による漁業経費の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、減速航行の徹底や船底清掃による省燃油活動の実践を行い、燃油使用量の削減を図る。 ・漁業者は、製氷・貯氷施設の活用により、施氷の徹底を行うことによる氷へのコスト増を抑え、経費の節減を図る。 <p>■これらの取組により基準年に対し3%の漁業コスト削減を目指す。</p>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・直轄特定漁港漁場整備事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業強化支援事業（国） ・地域づくり総合交付金（道）

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）8.2%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、スケトウダラの取扱いについてバラ出荷よりも単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を継続・伸長していくために、韓国の水産物輸入規制状況を確認しつつ、製氷・貯氷施設の活用により氷の角立ちが少ないプレート氷や鮮度保持効果が高い窒素氷を使用することで鮮度及び品質向上を図る。また、船上でスケトウダラ発泡詰め作業において袋氷を利用することで衛生面に配慮し、必要に応じて滅菌海水による魚船洗浄を行うなど、取扱い方法の改善を図るとともに、船上での低温管理（窒素氷の使用による保管）を徹底し輸出相手国の要請にあった出荷体制の構築を図る。これにより、韓国のほか中国など広く東アジアを対象に輸出の増加に努める。 ・漁業者と漁協、室蘭市は、追直漁港（陸上）で荷捌き処理するスケトウダラ・スルメイカを対象に、作業ルールに基づいた荷捌き作業を行い、漁港での作業動線の輻輳を回避することで水産物の細菌混入リスクの低減に努める。また、北海道庁及び開発局に対して、屋根付き岸壁の早期整備を要請する。 ・漁業者と漁協は、追直漁港の岸壁に高度衛生管理荷捌施設を新設について具体的に検討し、船舶との距離を近くすることによる漁獲物の陸揚げ時の細菌混入のリスク低減等の衛生管理や、低温保管し遠隔地への輸送の際の鮮度を保持することによる魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、先進地視察・各種実証試験の結果を踏まえ設定した保存方法に基づいて水産物を保存し、衛生管理及び鮮度・品質向上に努める。 ・漁業者と漁協は、製氷・貯氷施設を活用し、アブラガレイ・カジカ等の低・未利用資源の出荷販売や、ソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の価格低下対策（販路拡大・市場ニーズに合わせた受注販売など）として、漁獲後に鮮度を保持したままで酸化を防ぎ長期保存の効く窒素氷の活用、流通事情に適したロット管理の構築により付加価値の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、電子入札システムの導入を具体的に計画し、他市場とのセリ時間の重複を回避することにより、市況を適切に反映した魚価の向上を図る。
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、「室蘭さかなの港町同窓会」を含む朝市などのイベントを継続開催し、魚介類のPR活動を行うなど、イベントに積極的に参加し、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。 <p>■これらの取組により基準年に対し0.7%の漁業収入向上を目指す</p>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、漁獲のプール制をはじめとする抜本的な共同操業を実施することにより、漁場の情報共有化、漁場の分散操業、全船による計画的な漁獲努力を実施し、水産資源を持続的に利用できる体制を維持するとともに、漁場までの航行時間の短縮化等による漁業経費の削減を図る。 ・漁業者は、減速航行の徹底や船底清掃による省燃油活動の実践を行い、燃油使用量の削減を図る。 ・漁業者は、製氷・貯氷施設の活用により、施氷の徹底を行うことによる氷へのコスト増を抑え、経費の節減を図る。 <p>■これらの取組により基準年に対し3%の漁業コスト削減を目指す。</p>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・直轄特定漁港漁場整備事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業強化支援事業（国） ・地域づくり総合交付金（道）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）11.3%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、スケトウダラの取扱いについてバラ出荷よりも単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を継続・伸長していくために、韓国の水産物輸入規制状況を確認しつつ、製氷・貯氷施設の活用により氷の角立ちが少ないプレート氷や鮮度保持効果が高い窒素氷を使用することで鮮度及び品質向上を図る。また、船上でスケトウダラ発泡詰め作業において袋氷を利用することで衛生面に配慮し、必要に応じて滅菌海水による魚船洗浄を行うなど、取扱い方法の改善を図るとともに、船上での低温管理（窒素氷の使用による保管）を徹底し輸出相手国の要請にあった出荷体制の構築を図る。これにより、韓国のほか中国など広く東アジアを対象に輸出の増加に努める。 ・漁業者と漁協、室蘭市は、追直漁港（陸上）で荷捌き処理するスケトウダラ・スルメイカを対象に、作業ルールに基づいた荷捌き作業を行い、漁港での作業動線の輻輳を回避することで水産物の細菌混入リスクの低減に努める。また、北海道庁及び開発局に対して、屋根付き岸壁の早期整備を要請する。 ・漁業者と漁協は、追直漁港の岸壁に高度衛生管理荷捌施設の新設し、船舶との距離を近くすることによる漁獲物の陸揚げ時の細菌混入のリスク低減等の衛生管理や、低温保管し遠隔地への輸送の際の鮮度を保持することによる魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、先進地視察・各種実証試験の結果を踏まえ設定した保存方法に基づいて水産物を保存し、衛生管理及び鮮度・品質向上に努める。 ・漁業者と漁協は、製氷・貯氷施設を活用し、アブラガレイ・カジカ等
--------------	--

	<p>の低・未利用資源の出荷販売や、ソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の価格低下対策（販路拡大・市場ニーズに合わせた受注販売など）として、漁獲後に鮮度を保持したままで酸化を防ぎ長期保存の効く窒素氷の活用、流通事情に適したロット管理の構築により付加価値の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、電子入札システムを導入し、他市場とのセリ時間の重複を回避することにより、市況を適切に反映した魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、「室蘭さかなの港町同窓会」を含む朝市などのイベントを継続開催し、魚介類のPR活動を行うなど、イベントに積極的に参加し、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。 <p>■これらの取組により基準年に対し1.1%の漁業収入向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、漁獲のプール制をはじめとする抜本的な共同操業を実施することにより、漁場の情報共有化、漁場の分散操業、全船による計画的な漁獲努力を実施し、水産資源を持続的に利用できる体制を維持するとともに、漁場までの航行時間の短縮化等による漁業経費の削減を図る。 ・漁業者は、減速航行の徹底や船底清掃による省燃油活動の実践を行い、燃油使用量の削減を図る。 ・漁業者は、製氷・貯氷施設の活用により、施氷の徹底を行うことによる氷へのコスト増を抑え、経費の節減を図る。 <p>■これらの取組により基準年に対し3%の漁業コスト削減を目指す。</p>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・直轄特定漁港漁場整備事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業強化支援事業（国） ・地域づくり総合交付金（道）

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）14.5%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、スケトウダラの取扱いについてバラ出荷よりも単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を継続・伸長していくために、韓国の水産物輸入規制状況を確認しつつ、製氷・貯氷施設の活用により氷の角立ちが少ないプレート氷や鮮度保持効果が高い窒素氷を使用することで鮮度及び品質向上を図る。また、船上でスケトウダラ発泡詰め作業において袋氷を利用することで衛生面に配慮し、必要に応じて滅菌海水による魚船洗浄を行うなど、取扱い方法の改善を図るとともに、船上での低温管理（窒素氷の使用による保管）を徹底し輸出相手国の要請にあった出荷体制の構築を図る。これにより、韓国のほか中国など広く東アジアを対象に輸出の増加に努める。 ・漁業者と漁協、室蘭市は、追直漁港（陸上）で荷捌き処理するスケトウダラ・スルメイカを対象に、作業ルールに基づいた荷捌き作業を行い、漁港での作業動線の輻輳を回避することで水産物の細菌混入リスクの低減に努める。また、北海道庁及び開発局に対して、屋根付き岸壁の早期整備を要請する。 ・漁業者と漁協は、追直漁港の岸壁に高度衛生管理荷捌施設を新設した
--------------	--

	<p>施設を稼働し、船舶との距離を近くすることによる漁獲物の陸揚げ時の細菌混入のリスク低減等の衛生管理や、低温保管し遠隔地への輸送の際の鮮度を保持することによる魚価の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と漁協は、先進地視察・各種実証試験の結果を踏まえ設定した保存方法に基づいて水産物を保存し、衛生管理及び鮮度・品質向上に努める。 ・漁業者と漁協は、製氷・貯氷施設を活用し、アブラガレイ・カジカ等の低・未利用資源の出荷販売や、ソウハチガレイなどの一過性多獲魚種の価格低下対策（販路拡大・市場ニーズに合わせた受注販売など）として、漁獲後に鮮度を保持したままで酸化を防ぎ長期保存の効く窒素氷の活用、流通事情に適したロット管理の構築により付加価値の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、導入した電子入札システムを活用し、他市場とのセリ時間の重複を回避することにより、市況を適切に反映した魚価の向上を図る。 ・漁業者と漁協は、「室蘭さかなの港町同窓会」を含む朝市などのイベントを継続開催し、魚介類のPR活動を行うなど、イベントに積極的に参加し、魚食普及・販売促進及び魚価向上に取り組む。 <p>■これらの取組により基準年に対し1.5%の漁業収入向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、漁獲のプール制をはじめとする抜本的な共同操業を実施することにより、漁場の情報共有化、漁場の分散操業、全船による計画的な漁獲努力を実施し、水産資源を持続的に利用できる体制を維持するとともに、漁場までの航行時間の短縮化等による漁業経費の削減を図る。 ・漁業者は、減速航行の徹底や船底清掃による省燃油活動の実践を行い、燃油使用量の削減を図る。 ・漁業者は、製氷・貯氷施設の活用により、施氷の徹底を行うことによる氷へのコスト増を抑え、経費の節減を図る。 <p>■これらの取組により基準年に対し3%の漁業コスト削減を目指す。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁に停泊中の乗組員の宿泊施設について、現状は船舶内で宿泊しているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・直轄特定漁港漁場整備事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業強化支援事業（国） ・地域づくり総合交付金（道）

(5) 関係機関との連携

室蘭漁業協同組合、室蘭市と連携しながら各種支援制度を活用し、随時、北海道胆振総合振興局、胆振地区水産技術普及指導所、北海道機船漁業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会室蘭支店等のアドバイスを受けながら浜の活力再生プランを実施していく。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

・年度初めに船主や研究機関を参集し、項目ごとに取組みの成果や課題を評価・分析し、次期に向けた検討課題を抽出、その課題の解決に取り組む。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

韓国向けスケトウダラ輸出 の拡大による輸出数量増大	基準年	平成30年度 ～令和4年度 5中3平均： 54t
	目標年	令和10年度： 208t

地域外乗組員の増加 (定住・交流人口数の増加)	基準年	令和4年度： 地域外乗組員数 24人
	目標年	令和10年度： 地域外乗組員数 28人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

バラ出荷より単価の高い韓国輸出向け出荷（発泡箱詰め）を、過去最大であった平成28年の水準まで拡大し、漁業所得の向上を図る。
また、地域外乗組員は令和4年度時点で24人となっているが、宿泊施設を取得することにより、地域外からの乗組員の誘致及び待遇改善を図り、定住・交流人口の増加（目標年時点で4人増加）を目指す。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰などの経済的環境変化による影響を緩和し、漁業経営の安定を図る。
直轄特定漁港漁場整備事業	屋根付き岸壁等の整備により、漁獲物の品質保持、鮮度向上及び衛生管理体制の構築を図る。